

◆新技術定着試験事業

ヒトエグサ養殖試験

水産業改良普及センター本部駐在 中村勇次

1. 目的

ヒトエグサは、県内では北中城や恩納村などで養殖されており、北部の沿岸海域でも小規模で養殖が行われている。ヒトエグサは、モズクと違って需要が供給を上回っていることから販売に関してはあまり問題とならない。これは、天然物の採取や養殖においても天然採苗に頼っていることから、気候の変動等により生産量が安定しないことが原因となっている。北部地区において、新たな手法を使って天然採苗による養殖試験を実施することにした。

2. 材料及び方法

ヒトエグサ養殖は、伊江島、羽地（屋我地島）、今帰仁（古宇利島）、伊是名島、伊平屋島の北部5地区で養殖試験を実施することにした。また、伊江島、伊是名島、伊平屋島においては、問題なく採苗が行われていることからこれまでどおりの天然採苗で養殖を実施し、羽地と今帰仁では採苗状況が悪いことからリボン式採苗法による養殖試験を実施した。

リボン式採苗法とは、採苗網（通常2セット10枚）の下に1枚のリボン網を設置する採苗法である。リボン網とは、通常の養殖用網のすべての節に40cmのビニール紐（白色の縦に裂けるビニール紐：商品名「PP縄#100」）を1回結びで結束し、先端を3つに裂いたものである。北中城において同手法による実証試験が行われており、泥や雑藻対策はもとより良好な採苗効果が得られている。

3. 結果

伊江島は、2年前から養殖を開始しており、

島の西側（しゅうべ）と魚類養殖場の2カ所で養殖を行っているが、しゅうべの方が養殖に適している。11月9日に伊江漁協にて渡久地氏と待ち合わせてしゅうべのヒトエグサ養殖漁場の斜路近くの漁場へ6セット30枚の網を張った。昨年使用した西側漁場はほとんどの鉄筋が抜けるか折れ曲がっていたため使用しないこととした。2月23日にしゅうべを巡回したところ本張りに移せる状態までヒトエグサが着生しているのが確認された。その後に漁業者が多忙であったことから本張りは行われず数回収穫が行われただけであった。

羽地は、2年前から養殖を開始しているが養殖漁場の泥汚れが酷く、ヒトエグサ収穫後の洗浄に時間を要している。昨年、リボン採苗法によりある程度の泥避けと種付け効果が見込まれたことから、今年は漁業者自作のリボン網で試験を実施している。11月頃から沖出しが実施されており、リボン網については一定の泥避けと種付け効果が見られているが、収穫時にかけて生育不良が見られたことからリボン網と通常網の収量比較は実施できなかった。

今帰仁は、古宇利島で3グループが養殖を実施しており、うちの1グループと昨年から養殖試験を実施している。古宇利島では、3年前は非常に種付きが良好であったが、年々種が付かなくなっている。11月4日に今帰仁漁協の喜屋武氏とヒトエグサリボン採苗試験のリボン網を作成。養殖海域の古宇利島周辺は波浪が強く、昨年リボン網が絡んで展開に苦労したことから、今期はリボン網の長さを短くした（前回40cm、今回20cm）。リボン網2枚を作成し、11月5日に網を張った。11月8日に古宇

利のヒトエグサ養殖場を巡回したところ、リボン網を短くしたからかりボンの絡みはなかった。今回はリボンを短くしすぎたせいかりボンが届かない部分で種の着生が少ない傾向が見られた。喜屋武氏と隣接してヒトエグサ養殖を実施している玉城氏もリボン採苗を試みたいとのことだったので、ビニール紐1巻を提供した。喜屋武氏は、2月から収穫を実施しており、今期は数回の収穫が実施された。

伊是名では、1グループで養殖が行なわれているが、新たに離島再生支援事業で数グループが新規で養殖に取りかかっている。漁業権免許切り替え後に新たな漁業権を取得する予定とのことから漁場選定等で協力を行った。

伊平屋では、養殖技術が定着しており、数グループで養殖が行なわれている。これまで、収穫後の洗浄を簡易的な洗浄機で行なっているため、製品の品質が安定しなかったが、今期から漁協側モズク加工場内にある洗浄機を使用して洗浄を行っており、引き続き品質安定を図っていくとのことであった。

12月26日に昼の干潮時を利用して本部町備瀬天久氏のヒトエグサ養殖漁場現場調査を実施した。天久氏は、12月10日頃から収穫を実施しているとのこと。出荷先からの注文に応えるため、短めであるが収穫を行っているとのことであった。

1月25日に久米島にてヒトエグサ養殖予定漁場の調査。5カ所のヒトエグサ養殖予定場所を調査したうち、3カ所については天然物の生育もよく潮位も適正であったことから免許申請するよう助言した。

4. 考察

どの地区でもヒトエグサの販路は確保されているようなので、養殖指導と併せて品質安定に向けた指導を行う。出荷に関しては、乾燥と冷凍のメリットとデメリットを勘案したうえで出荷形態を検討する必要がある。

羽地地区では、泥汚れが酷いことから、採

苗率の向上や網掃除にもなるリボン採苗試験を来年度に実施したい。リボン採苗は、本張りでは外してしまうので収穫後の洗浄は必要になるが、少なくとも根本への泥付着による芽落ちは防ぐことができると思われる。

今帰仁村古宇利島では、波浪が強くリボン網が採苗網に絡みついたことから、リボン網の短くすることで網への絡みは解消された。しかし、リボンが届かない部分で種の着生が少ないのが確認されたことから、次年度は数cmリボンを長くして再度試験を実施したい。



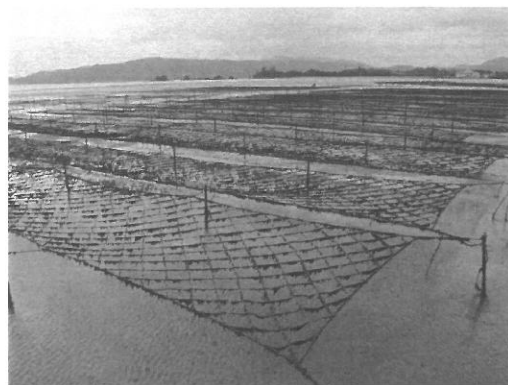
伊江島しゅうべの採苗作業の様子



伊江島しゅうべの採苗作業の様子



伊江島しゅうべの採苗した網



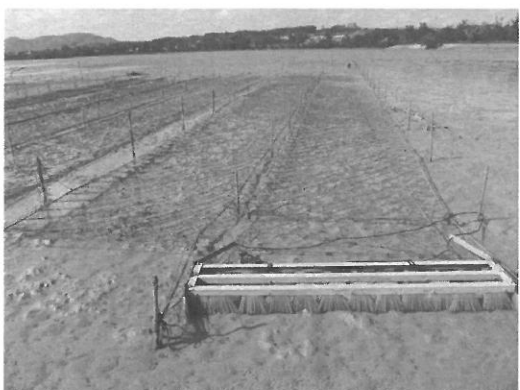
屋我地島のヒトエグサ養殖網の様子



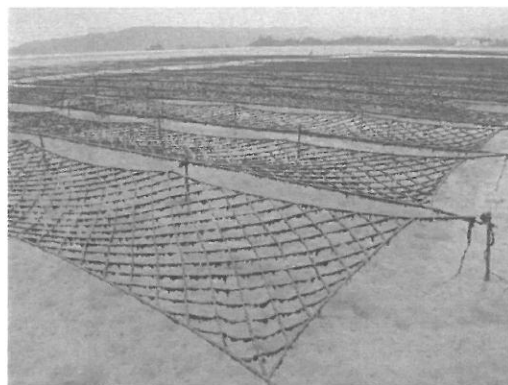
屋我地島採苗網の様子



左側はリボン採苗網、右は通常採苗網



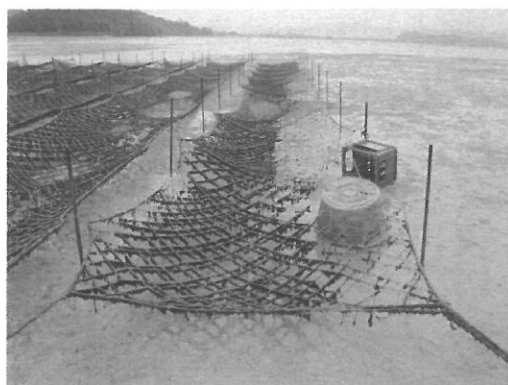
屋我地島のヒトエグサ養殖漁場
手前は漁業者自作の網洗浄機



屋我地島のヒトエグサ養殖網の様子



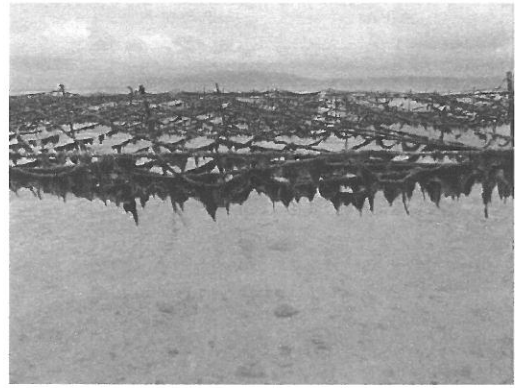
中心と左の網がリボン網、右は通常採苗網
リボン網には緑色のヒトエグサ着生を確認



屋我地島収穫途中の網の様子



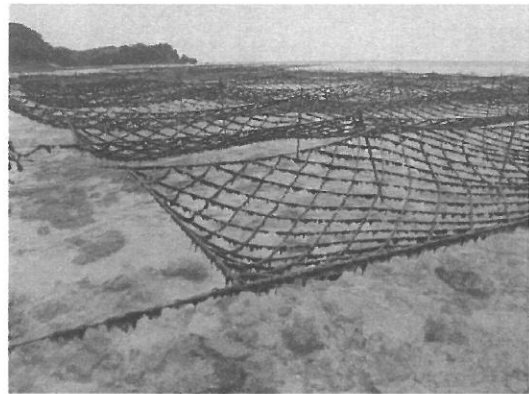
古宇利島のヒトエグサ養殖漁場



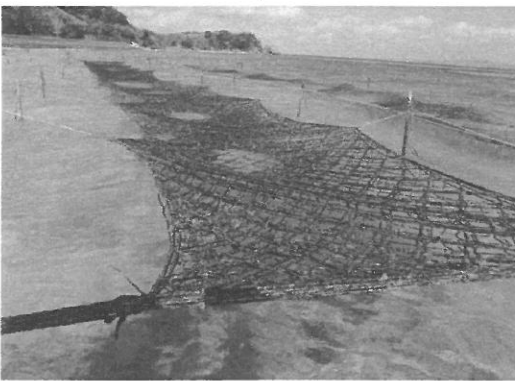
古宇利島収穫しているヒトエグサの様子



古宇利島漁場のリボン採苗網の様子



古宇利島沖側の生育不良の網



通常採苗網の様子。右がリボン採苗網。



本部町備瀬のヒトエグサ養殖漁場



古宇利島喜屋武氏の収穫の様子



天久氏はフォークを使って収穫を行っている